

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|--|
| 名 前 | | 堀内敬三 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当3年目の「化学Ⅱ」、担当2年目の「科学方法論」の講義内容を充実させる。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」の内容を整理充実させ、公開セミナーとする。 ・大学院講義「X線構造解析特論」、「磁気共鳴特論」の内容を検討し、より分かり易い内容にする。 ・卒業研究担当学生の進路指導を行う。 | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・「化学Ⅱ」、「科学方法論」の講義内容を充実させることができた。 ・「セミナーⅠ・Ⅱ」を他の研究室の卒研生、院生が受講した。 ・大学院講義の内容を改善することができた。 ・卒業研究担当学生3名の内、就職が決まったのは1名だった。 |
| 研究 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際誌に学術論文(二重融解、構造相転移、常磁性体のスピンドイナミクス)を投稿する。 ・学外研究者との共同研究(亜鉛、カドミウム、水銀錯体の構造相転移と分子運動)を推進する。 | | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> ・投稿予定の論文を仕上げるができず、投稿できなかった。 ・学外研究者と今後の研究について打ち合わせを行った。 |
| 社会貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般市民を対象に公開授業(「化学Ⅱ」)を行う。 ・県内高校への出前講座を実施する。 ・オープンキャンパスで講師を担当する。 ・教員免許状更新講習の講師を担当する。 ・日本化学会代議員及び九州支部幹事を務める。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業(「化学Ⅱ」)に1名の受講者があった。 ・出前講座はお呼びがかからなかった。 ・オープンキャンパスで講義を行った。 ・教員免許状更新講習は受講生が少なく開講しなかった。 ・日本化学会代議員及び九州支部幹事を務めた。 |
| 管理運営 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学系主任を務める。 ・化学系教務委員会の委員長を務める。 ・入学者選抜方法等検討委員会の理学部委員を務める。 | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学系主任、それに伴う学部委員会、全学委員会の委員を務めた。 ・化学系教務委員会の委員長を務めた。 ・入学者選抜方法等検討委員会の理学部委員を務めた。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|
| 名 前 | | 石田 哲夫 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミでは、新1年生が大学での勉学をスムーズに開始できるように多面的にサポートする。 ・4年生のセミナーと卒業研究では、生化学研究に不可欠な基礎知識の習得と英語論文を読む力を養い、卒業までに学会発表できるレベルまで研究を展開できることを目指す。 ・化学1では、工学部の学生が一般化学の基礎を取得できるように、講義中に演習を行うなど工夫をする。 ・博士前期課程1年の特別演習と特別研究では、生化学研究を独立研究者として行える力の養成を目指す。 ・博士前期課程の特論では、酵素研究に必要な専門知識の習得を目指す。 | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミでは、統計入門のテキストを人数分準備し、実験データを取り扱う基礎づくりをした。 ・3人の卒研の学生に対して、毎週一回生化学テキストの輪読を行い、適時英文論文を紹介して基礎知識の習得と論文を読む力の養成した。各自に独立した研究テーマを設定し、個別に指導した。一人は、学会発表まで行い、大学院前期課程に進学する予定である。 ・化学1では、テキストの量子化学に基づく内容からはじめ、講義の後半で化学量論など高等学校での学習を深める部分を説明した。講義中に小テストによる演習と回答を行った。 ・博士課程前期の学生2人に個別の研究テーマを課し、それぞれ学会発表を行った。 |
| 研究 | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも4つ以上の論文を学術専門誌に投稿し、受理・掲載を目指す。 ・日本蛋白質科学会、日本生化学会などで、5つ以上の学会発表を行う。 ・研究資金を外部から獲得するために、応募条件が満たされる限り、研究費の公募に積極的に応募し、一件以上の獲得を目指す。 | | 0.45 | <ul style="list-style-type: none"> ・Springer社から出版されるハンドブックAdvanced Methods in Structural Biologyの14章 Frontal gel filtrationを執筆した(印刷中)。 ・共著論文がMolecular Cellに掲載された。 ・学会で7つのポスター発表と、1つの口頭発表を行った。 ・住友財団環境研究助成(500万円)に応募したが、不採択。 ・琉球大学のシーズ集に2件の原稿を提出した。 |
| 社会貢献 | 0.00 | | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・済洲大学との学生交流に協力した。 |
| 管理運営 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・化学系内や学内で要請される管理・運営上の業務については、真摯に取り組む。 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・入試関連の業務に協力した。 ・化学系の入試方法検討委員会の委員長としての職務を果たした。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 名 前 | | 安里 英治 | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 化学系 | 職 名 | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.45 | 1)「化学II」及び本年度担当の「化学入門I」でリフレクションシート制を導入し、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握に勤め、教育効果の改善につなげる。 2)研究室単位で「雑誌会」を開催し、最近の研究分野の動向を学生とともに学ぶことで研究室所属学生の資質向上につとめる。 3)単位取得率の低い「無機化学II」では、小テスト制を導入して学生の理解と単位取得率向上につとめる。 4)研究室所属学生(B4:2名)に対し、県内外企業等に関する情報提供を続け、就活意識を高めるとともに就職の実現を手助けする。 | | 0.45 | 1)「化学II」「化学入門I」でリフレクションシート制を導入した結果、出席点呼の時間削減と学生の理解度の把握につながった。来年度も継続する予定。 2)高良研究室と合同で「雑誌会」「雑誌抄録会」を開催した。それを通じて研究室所属学生に論文を読む習慣がついたと判断している。 3)「無機化学I」「無機化学II」で小テスト制を導入した。授業評価アンケートでは小テスト制を支持する意見があり、概ね支持されていると判断する。 4)研究室所属学生(B4:2名)の内、1名は大学院へ進学を果たした。1名は本人の希望により夏休み期間中(8、9月)の卒業研究を中断し、就職活動(試験勉強今日を含む)に専念させた。 | |
| 研究 | 0.30 | 1)佐賀大、山形大との共同研究を推進し、研究成果を国際誌へ1報以上投稿する。 2)錯体化学会会員として、例えばポスター賞審査員等の役割を通して「錯体化学討論会」運営に協力する。 3)短期客員研究員制度を利用してミラノ大学在学の外国人大学院生を受け入れ、水溶性トリアゾール配位子の金属錯体合成に関する共同研究を推進する。 | | 0.30 | 1)北九州高専との共同研究が2報、立教大との共同研究が1報、国際誌に受理、掲載された。 2)本年度は大学院生不在の背景もあり、「錯体化学討論会」への出席参加を見送った。そのため計画していた「討論会」の運営協力を果たせなかった。 3)短期客員研究員制度を利用してミラノ大学在学の外国人大学院生を受け入れ金属錯体合成に関する共同研究を推進した。留学生本人はその成果を含む業績が評価され、8月に学位を取得した。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 1)県内高校へ出向いて化学系の紹介を行うなど、化学系広報活動を通して教育研究活動に関する情報発信に務める。 | | 0.10 | 1)2月に興南高校で化学系の紹介を行う予定。2月1日現在、予定されている高校訪問はその1件であるが、高校側からの依頼があれば、速やかに対応したい。 | |
| 管理 運営 | 0.15 | 1)全学委員として「全学教員養成運営委員」「生涯学習教育研究センター運営委員」の職責を全うする。 2)理学部委員とし教育委員会委員の職責を全うする。 3)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「広報委員会」の委員職責を全うする。 | | 0.15 | 1)全学委員として「全学教員養成運営委員」「生涯学習教育研究センター運営委員」の職責を全うした。 2)理学部委員とし教育委員会委員の職責を全うした。 3)化学系委員として「教務委員会」「評価将来計画委員会」「広報委員会」の委員職責を全うした。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|---|--|--|
| 名 前 | 漢那 洋子 | | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 化学系 | |
| 職 名 | | | 職 名 | 准教授 | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.35 | <p>●専門選択必修科目「物理化学Ⅳ」を新たに担当する。●「物理化学実験」の実験テーマの改訂を行う。●修士課程の「光有機物理化学特論」を改訂した「分子光化学特論」を開設する。●研究室に所属する院生の研究指導を行う。●研究室所属院生の学会発表等を指導する。●研究室の院生が化学専攻の修士修了後のキャリアイメージを拡げることができるよう情報提供・支援・指導を行う。●1年次指導教員として修学指導や学生生活支援を行う。</p> | 0.25 | <p>●学部専門選択必修科目「物理化学Ⅳ」を新たに開設・担当した。●これまで提供していた修士課程の「光有機物理化学特論」に替わる科目として「分子光化学特論」を開設、光反応のメカニズム研究法に関する内容を強化して講義を行った。●その他、「化学Ⅰ」「基礎ゼミ」「物理化学実験」「反応速度論」のそれぞれ全体と、「アドバンスト物理化学」「科学方法論」「キャリアデザインとジェンダー」のそれぞれ一部を従来通り担当した。●研究室所属の院生の研究指導等を行った。●研究室所属院生に学会発表指導を行い、実際に発表してもらった。●研究室所属院生が化学系大学院修了後の一般的なキャリアイメージを知り、自身の方針を考えるための情報提供・支援・指導等を行った。●学部化学系1年次指導教員として修学指導や学生生活支援などを行った。</p> | |
| 研究 | 0.35 | <p>●イオン液体を用いた溶媒系における光化学研究の成果を学会で発表する。●たんぱく質と結合した分子の光反応について、論文を執筆する。●光化学を題材にした科学教育の研究について論文を執筆する。●光で起こる化学変化・現象に関して、新しいテーマを開拓する。●国際沖縄研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」のテーマに取り組む。</p> | 0.25 | <p>●イオン液体を用いた溶媒系における光化学研究の成果を国内学会で発表した(3件:光化学討論会1件、日本化学会の関連学会2件)。●分子内水素結合系の光化学に関して励起状態プロトン移動のエネルギー制御による二重蛍光についての研究論文を発表した(Photochem. Photobiol. Sci)。●たんぱく質と結合した分子の光化学について共同研究を再開した。●国際沖縄研究所の併任教員としてのテーマ「ジェンダーと自然科学」研究への取り組みを通して考察した諸々の事柄について、プロジェクト(沖縄ジェンダー学の創出)報告書に報文を執筆した。●光化学協会誌の依頼により、近年、当化学系で実施した物理化学分野のカリキュラム改訂に関して小論文を執筆、発表した。</p> | |
| 社会貢献 | 0.15 | <p>●今年度の「教員免許状更新講習」において、本学提供の選択領域科目として、1講座を担当する。●公益法人日本化学会の代表正会員を務める。●沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事を務める。●本学の公開講座において1講座を開講する。</p> | 0.25 | <p>●「教員免許状更新講習」の選択科目「光と物質—色と化学変化—」を開講した。●日本化学会の代表正会員を務め会員増強活動を行った。●沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事を務めた。●理学部体験ツアーにおいて、光化学の体験実験を提供・実施した。●オープンキャンパスのジェンダー協働推進室企画「女性研究者による理系女子への自然科学分野の紹介」において、光化学を中心とした自然科学分野全般について紹介・演示実験および自然科学分野における男女共同参画の意義の講演を行った。●沖縄県立総合教育センターの依頼により短期研修講座(高等学校「化学」講座)にオブザーバー・講師として参加した。●沖縄県内の高校生2名をインターンシップ生として研究室に受け入れ指導した。●第38回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行なった。●本学の公開講座において「理系女子・理系男子の世界—進路選択とキャリア形成—」を開講(2月下旬予定)。●本学の高大連携の一環として出前講座(光化学の世界)を沖縄県立知念高校の依頼で実施(3月中旬予定)。</p> | |
| 管理運営 | 0.15 | <p>【全学】●全学学士教育プログラム委員(化学系代表)を務める。●総合科目企画小委員会委員を務める。●ジェンダー協働推進室室員としての仕事を行う。【理学部】●理学部教育委員会委員を務める。●理学部図書委員を務める。【化学系】●化学系教務委員としての業務を行う。●化学系施設・安衛法対策委員としての業務を行う。</p> | 0.25 | <p>【全学】全学学士教育プログラム委員(化学系委員)として意見聴取や文書作成等の仕事を行った。●総合科目企画小委員会委員(理学部委員)を務めた。●ジェンダー協働推進室委員(理学部委員)として、その審議や文科省の人材育成シンポジウムに参加した。●戦略的教育支援等推進経費(仮称)にかかるWGメンバー(理学部委員)として審議に参加(2月から)。【理学部】●理学部教育委員会委員としての仕事を行った。●理学部図書委員(化学系委員)として学術資料選定に関する意見聴取等の仕事を行った。【化学系】●化学系教務委員(便覧・時間割作成担当)としての仕事を行い、また、これらの作成に関する年間の作業内容・時期・手順等についてマニュアル文書を作成、引継ぎを実施した(10月まで)。●化学系施設・安衛法対策委員を務めた。●その他の学内委員を務めた。</p> | |
| | 0.00 | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | <p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p> | 1.00 | <p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p> | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|--|
| 名 前 | | 池田 譲 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 生物系 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.45 | 分かりやすい共通教育と学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。また、学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。 | | 0.45 | 共通教育、学部専門講義については、アンケート等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。また、学部4年生、大学院生、ポスドクについて、国際学会、国内学会への参加を奨励し、成果発表の機会を設けた。さらに、ポスドクについては研究助成金への申請を積極的に勧め、支援した。 |
| 研究 | 0.40 | 科学研究費補助金の助成対象となった研究課題、および「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」に関する研究課題を遂行する。 | | 0.40 | 科学研究費補助金の助成対象となった研究課題(2件)および担当研究者である推進プロジェクト、さらに、新たに採択され担当となった琉球大学中期計画達成戦略的研究推進系費を遂行し、成果を国際学会と国内学会にて発表した。また、平成27年8月に琉球大学で開催された沖縄ワークショップ「頭足類学を紡ぐ」、同年11月に函館市で開催された国際頭足類諮問会議ワークショップおよびパネルディスカッションでは、企画者、講演者として会を遂行した。また、研究成果を2本の論文として国際誌に、1本の総説として和文専門雑誌に、1本の解説として和文専門書に、2本の解説として和文一般誌にそれぞれ発表した。さらに、ウィーン大学(オーストリア)の研究者を短期間受け入れ、活発な研究交流を行った。 |
| 社会貢献 | 0.05 | 教員免許更新講習に向けて準備を進める。 | | 0.05 | 教員免許更新講習の準備を進めた。また、平成27年4月に毎日放送「林先生が驚く初耳学」に、同年9月にRBCラジオ「シャットi 1000人の言葉」に、同年12月に日本テレビ「所さんの目がテン!」にそれぞれゲスト出演し、専門分野である頭足類について分かりやすく解説した。その他、頭足類に関するマスコミからの照会に日常的に対応した。また、著書「イカの心を探る一知の世界に生きる海の霊長類」(NHK出版)が国語教材として引用された。また、沖縄県立北部農林高校生物部の活動を支援し、国際学会での成果発表などをサポートした。 |
| 管理運営 | 0.10 | 生物系広報グループメンバー、理学部自己評価委員、代議員、副主任として生物系に関わる広報活動、理学部の自己評価、生物系の管理運営に関する事柄に従事する。また、動物実験委員として動物実験に関する諸事に関わる。 | | 0.10 | 生物系広報グループメンバー、理学部自己評価委員として生物系の広報活動と理学部の自己評価を担当した。また、代議員、副主任として生物系と理学部の管理運営に従事し、教育研究の円滑な遂行に努めた。さらに、動物実験委員として、動物実験の審査などの諸事に関わった。また、科研費アドバイザーにも就任した。さらに、日本学術振興会「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」について、研究担当者としてプログラムの管理運営に関わった。また、機器分析支援センター-RI施設放射線安全委員会委員に就任した。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|---|
| 名 前 | | 竹村明洋 | 所 属 | | 理学部・海洋自然科学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | <p>共通教育科目(生命の科学など)及び学部専門科目(比較内分泌学など)を担当する。大学院科目(比較内分泌学特論など)を担当する。上記講義では、講義毎のメールアドレスを設定して学生の意見・感想を取り上げる工夫を凝らす。研究室所属の学部学生の卒論指導を行い、研究成果の学会発表を奨励する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。研究室に所属している大学院生全員が国際もしくは国内学会での発表を少なくとも一回行うようにする。</p> | | 0.25 | <p>共通教育・学部科目として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。済州大学との学生交流の取りまとめ等を行った。大学院学生の研究成果を国際学術誌に投稿した。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は16回(うち、国際学会は8回)で、研究室に所属する大学院生は全員発表した。年度目標はほぼ達成したと判断する。</p> |
| 研究 | 0.25 | <p>現在獲得している外部資金による研究を計画通り進め、サンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国やフィリピンの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究に関する研究論文の採択を目指す。本年度で終了する科研費後継課題を設定し、引き続き同予算規模の科研費に応募する。</p> | | 0.25 | <p>外部資金として科研費(基盤研究B;海外学術調査)と沖縄科学イノベーションシステム構築事業を獲得した。本年度の外部資金の獲得は、直接経費で約700万円であった。韓国、フィリピン、ベトナムを訪問し、共同研究を行った。共同研究の結果が4編の論文として発表された。共同研究による学会発表は国内外合わせて3回であった。基盤研究B(一般研究と海外学術調査)と挑戦的萌芽研究に応募した。年度目標は達成したと判断する。</p> |
| 社会 貢献 | 0.10 | <p>県内外の中学・高校の総合学習や教員免許講習講座に協力する。NPOや学会等の企画する実習や講演会に積極的に参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。</p> | | 0.10 | <p>修学旅行生(中高生)や宇宙少年団(小中生)へのセミナーを行った。動物学会支部委員としての活動を行うとともに、来年度の大会の実行委員として企画に参加した。昨年度から引き続き、Comparative Biochemistry and Physiology, Development & Reproduction、Open Journal of FisheriesのEditorial Board Memberとして雑誌の編集に携わった。年度目標はほぼ達成したと判断する。</p> |
| 管理 運営 | 0.40 | <p>亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進する。また、海洋自然科学科長(生物系主任)として、学科・系運営をスムーズに進めると共に理学部や所属学科系における各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加する。</p> | | 0.40 | <p>亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として機構の管理運営を行った。研究推進会議企画員として本学の研究機獲得向上に向けたいくつかの施策を実施した。学科長として海洋自然科学科の運営を主体的に進めると共に理学部の各種委員会等を通して学部学科の管理運営に積極的に参加した。年度目標は達成したと判断する。</p> |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p> | | 1.00 | <p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p> |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 立原一憲 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--------------------------------------|---|--------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週、研究室在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。卒業、修了予定者の進路に関して積極的に相談に乗り、具体的なアドバイスを行うとともに、必要に応じて推薦状を作成する。 | | | 0.30 | 担当する生物学概論で、各回の授業終了時に質問カードに講義内容に関する疑問を記入させ、次回の講義開始時に回答した。海洋生物生産学実習Ⅱで、沖縄県栽培漁業センターを見学させ、実習の内容が社会でどのように応用されているのかを学ばせた。大学院在籍者には、学会参加を前提とした研究計画を立てさせ、各自の目標に沿って研究を進めさせた。毎週月曜日に研究室所属の全学生から前週の進捗状況を報告させ、次週の計画を相談した。卒業予定者の就職相談を受け、必要に応じて推薦状を作成した。今年は修士修了予定の2名が公務員に合格した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 今年度は、4報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際学会1、国内学会5の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。科研費に複数、河川整備基金ほかの公募研究に複数、申請中である。 | | | 0.30 | 今年度は、査読付き論文を6報(計画の150%)印刷した。国際学会2、国内学会16の口頭(ポスター)発表(計画の300%)を行った。魚類学会などの評議員を務めた。また、科研基盤C、河川整備基金、美ら島財団研究助成金を獲得した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | 外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月3回程度、年間36回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。 | | | 0.30 | 県や国の委員と沖縄県内外の企業の相談を積極的に行い、1月15日現在、各種会議と相談回数は93回に及んでいる(計画の258%)。辺士名高校の特設授業を行い、奄美大島での小学生対象の自然説明会を実施した。年度内に、美ら島財団が行うベトナムの公務員対象の学習講座の講師を務める予定である。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | 担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。 | | | 0.10 | 大学院学務として、9月と3月の博士前期、博士後期の学生の修了をサポートした。生涯学習研究センター運営委員として会議に出席した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | REIMER James Davis | 所 属 | | 理学部 海洋自然学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---------------------|--|-----|--------------------------------------|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 共通教育科目(生物学実験など)及び学部専門科目(サンゴ礁多様性保全学)を担当する。大学院科目(English Manuscript Preparation、Advanced Invertebrate Biologyなど)を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。3年次指導教員として、学生について指導や相談を行う。 | | 0.30 | 無事に共通教育科目も専門科目も担当した。大学院科目も担当した。大学院学生の指導して、国際・国内学会や論文などの活動の指導をしました。沖縄産のスナギンチャク新種の論文も受理されて、大学院性が参加している論文が10件が受理された。3年次の指導教員として、無事に指導を行った。 | | | |
| 研究 | 0.45 | 現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。沖縄や太平洋におけるスナギンチャク類の調査や遺伝的変異について研究を進める。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。SATREPSのパラオprojectや、頭脳循環のAustraliaの研究を進める。 | | 0.45 | 今年度、論文19件が受理されました。沖縄産のスナギンチャク新種の論文も受理された。論文の中に、大学院性が参加している論文が10件である。Reviewerや国際学術雑誌Associate Editorとして、50論文以上reviewした。SATREPS(パラオ)の研究や頭脳循環もスムーズに推進した。さらに、第37回沖縄研究奨励賞受賞を受賞しました。 | | | |
| 社会貢献 | 0.05 | パラオで行うSATREPS Projectでは、outreach活動やcapacity buildingを行う。 | | 0.10 | パラオでのSATREPSの一般向きの発表をした。また、前期に、高公の教員免許授業も行った。さらに、うるま市の字宇堅の子供会の『磯歩き』や、サンゴのちゅら海大会のシンポジウムで一般向きの講演もした。 | | | |
| 管理運営 | 0.15 | 大学院学務WGやOIMAP委員会で構成員として参加する。大学院WGでは、10月の留学生orientationや、卒業発表会の広報や準備を行う。OIMAP委員会では、琉球大学の国際化を進むように活動する。 | | 0.10 | 大学院学務WGとOIMAP委員会に参加した。大学院WGで、学生便覧や時間割、卒業発表のtitleなどの英文版のチェックも行った。2月の大学院卒業発表(最終試験)の担当もしています。 | | | |
| 進路指導 | 0.05 | 配属の学部4年次生の進路確定に努める。2年次指導教員として、学生について進路指導を行う。 | | 0.05 | 配属の4年次6名の中の2名は無事に進学決定した(ライマー研で)。さらに、2名が内定をもらって、1名が留学、もう1名はまだ進路鶴決定していない状態です。 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 横田昌嗣 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 教授 |
|--|---------------------|---|-----|--|---|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部の植物形態解剖学, 生物学野外実習, 進化生態学実習, 基礎ゼミ, 博士前期課程の講義を行うほか, 卒論の研究指導を行い, 海外からの客員研究員の博士論文作成の指導を行い, 短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する。 | | | 0.30 | 当初の目的は達成した。その他, 「進化生物学特別実験」を実施し, 琉大特色科目の「琉球の自然保護」の世話人と講義を担当した。 | | |
| 研究 | 0.30 | 現在執筆中のラン科に関する著書の原稿を完成させる。編集と執筆を担当している沖縄県史自然編, 沖縄県の野生生物に関する啓蒙書(沖縄生物学会発行), 琉球列島の野生生物に関する英文の啓蒙書(琉大理学部編集), 沖縄県版レッドデータブックの原稿作成と編集作業を進める。琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し, 作成できたものから順次投稿する。 | | | 0.30 | 啓蒙書の「南西諸島の生物多様性, その成立と保全」(南方新社), 「Nature in the Ryukyu Archipelago: Coral Reefs, Biodiversity, and the Natural Environment」(琉球大学)については, 年度内に出版された。学術論文については, 原著3報が出版され, 2報が印刷中である。その他については, 現在も作業中である。おおむね当初の目的は達成した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 沖縄県文化財保護審議会委員(沖縄県), 沖縄県環境影響評価審査会委員(沖縄県), 世界自然遺産科学委員会委員(環境省), 環境省野生生物課などの希少種や外来種に関する検討会委員として専門家の立場として絶滅危惧種の保全, 自然環境や文化財の保護と活用について意見を述べる。 | | | 0.15 | 世界自然遺産, 国内希少種, 侵略的外来種, IUCN版・環境省版・沖縄県版レッドデータブックなどに関する多数の委員会に出席して, 意見を述べた。宮古島市史の編纂委員会で意見を述べ, 現地調査を3回行った。「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会に参加し, 公開シンポジウムの開催に協力した。特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査委員・書面評価員(日本学術振興会)を務めた。当初の目的は達成した。 | | |
| 管理 運営 | 0.15 | 生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか, 附属図書館学術情報基盤資料選定委員会委員として附属図書館の学術雑誌・データベースの購読計画の検討を行い, 琉球大学環境報告書の監査委員として学内の環境整備と管理に専門家の立場から意見を述べる。また琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラムの作成のため努力する。 | | | 0.15 | 当初の目的は達成した。その他, 理学部構内に植栽した樹木に解説板を付ける作業を理学部長から依頼され, 学生とともに50本の樹木について樹名板の原稿作成を行った。科研費申請支援アドバイザーを担当した。 | | |
| 進路 指導 | 0.10 | 研究室に所属する学部学生, 海外からの受け入れた客員研究員の進路について助言を行う。 | | | 0.10 | 博士後期課程を修了した留学生については, 学位を取得させることができた。卒業生については, 卒業論文の指導を行うとともに進路指導を実施し, 卒業生は就職内定が得られた。当初の目的は達成した。 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|
| 名 前 | | 伊澤 雅子 | 所 属 | | 理学部海洋自然科学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 博物館学芸員コースの順調な運営を行うことを目指す。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当する。博士後期課程2名、前期課程学生1名、および学位取得をめざす卒業生(留学生)の研究指導を行う。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れる。4年次5名について卒業研究の指導を行う。4年次指導教員として学業・生活面に関する指導を行い、卒業と進路の決定を目指す。「生物塾」プログラムを実施する。ひらめきときめきサイエンスが採択された場合には高校生対象に研究成果の還元を行う。 | | 0.30 | 博物館学芸員コースは本年も順調に運営でき、理系では農学部、理学部、教育学部の29名が学芸員資格を取得予定である。共通教育、専門科目、大学院科目において例年同様の科目を担当した。博士後期課程2名、前期課程学生1名、および学位取得をめざす卒業生(留学生)の研究指導を行い、前期課程学生は修了予定である。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れた。4年次5名について卒業研究の指導を行い、5名ともに進路が確定した。4年次指導教員として学業・生活面に関する指導を行い、卒業と進路に関する指導を行った。「生物塾」プログラムを実施した。ひらめきときめきサイエンスが採択され、高校生対象に、植物と動物の関係についての研究成果を元に実習を行った。インドネシアで行われたJoint Summer Courseに参加し、学生の指導を行った。 |
| 研究 | 0.30 | ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。国際的には台湾およびタイの研究者との共同研究を進める。現在投稿中の2編、投稿準備中の3編の論文について受理をめざす。沖縄生物学会、International Wildlife Management Congress、EastAsia Bat Congressでの学会講演を行う。また、書籍1冊(分筆)の完成をめざす。研究の一部は林野庁(1件)、環境省(2件)からの受託研究として実施する。11月に野生生物と社会学会を事務局長として沖縄で開催する。日本哺乳類学会評議員、奨励賞選考委員として学会の運営にあたる。 | | 0.30 | ヤマネコ類、大東諸島の生態系、動物と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進めた。また、中期計画達成プロジェクトとして、他学部とも連携したチームで「島嶼環境の生物多様性：創出・維持・遷移」を実施した。国際的には台湾およびタイの研究者との共同研究を行っている。5編の査読付き論文、1編の査読なし論文、共著の書籍1冊を公表した。沖縄生物学会、International Wildlife Management Congress、EastAsia Bat Congressでの学会講演を行った。研究の一部は林野庁(1件)、環境省(2件)からの受託研究として実施した。11月に野生生物と社会学会を事務局長として沖縄で開催した。日本哺乳類学会評議員、奨励賞選考委員として学会の運営にあたった。 |
| 社会貢献 | 0.20 | 環境省、林野庁、沖縄県関係の各種委員会にできる限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。大東諸島、西表・対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行なう。IUCNネコ科専門委員として海外に情報を発信する。沖縄県のレッドリストの見直しを行なう。 | | 0.20 | 環境省、林野庁、沖縄県自然保護課・文化課関係の各種委員会に出席し、希少種の保護、世界遺産に関わる検討、文化財の保全、環境保全について議論を行った。大東諸島、西表島、対馬の希少種について資料を収集し保護に関する提言を行った。IUCNネコ科専門委員としてIUCNのレッドリストの見直しを行った。また、沖縄県のレッドリストの見直しを進めた。 |
| 管理運営 | 0.20 | 学生指導主任として学生の指導に関する議論を行なう。系の中では学務世話人としての業務を行なう。 | | 0.20 | 学生指導主任として学生の指導に関する各種会議に出席し議論を行った。また、寮の点検、大学祭の見回り等を行った。学生に関わる問題に対応した。系の中では学務世話人としての業務を行った。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|
| 名 前 | | 中村 崇 | 所 属 | | 理学部 海洋自然学科 |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.45 | 担当講義科目全般での内容充実を図る。担当実習では、サンゴ礁生態系について学生が体験的・体系的に理解できるよう、瀬底実験施設での生物生産学実習VIIIと連携しつつ実施する。留学生向け講義(Introduction to Oceanography II、短期プログラム、APIセミナー等)を担当する。2名の卒業生についての研究・進路指導および、2名の博士論文研究の指導を担当する。 | | 0.45 | 講義・実習担当科目では、サンゴ礁の生態系を体系的かつ体験的に理解できるような実施ができたと言える。本年度は留学生向け講義の受講者が少なかったが、次年度は登録期間をぎりぎりまで伸ばすことで増員できるように対応する。博士課程後記1名の学位取得を終えることができた。 |
| 研究 | 0.35 | サンゴ礁生物の骨格形成メカニズムを明らかにするための研究および持続的なサンゴ礁保全を進める社会形成プロジェクトに関する研究を進める(科研A分担/キャンオン財団/科研B分担)。成果は順次論文化を目指す。また、2012年度からのサンゴ礁潜水調査を継続しておこない、石西礁湖での個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリングを進める(環境省/東京久栄)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からのパラオにおける研究推進を進める。 | | 0.35 | サンゴ礁生物を対象とした、代謝・骨格形成メカニズム研究を進めた(科研A分担/キャンオン財団)。また、野外潜水調査をおこない、石西礁湖での個体群生態学的なモニタリング調査を進めた(環境省/いであ)。SATREPSプロジェクト(JST/JICA)代表者として、パラオにおけるサンゴ群集モニタリングを中心とした研究を進めつつ、第3回のJCC会議・シンポジウムを現地で実施し、併せてプロジェクトの中間評価の対応をおこなった。成果については学会発表・論文化を進めた。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | 沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わる。一般向けには、国内でのセミナー開催およびパラオ国での公開講座・レクチャーに積極的に関わり、本学の研究成果について社会還元促進につとめる。 | | 0.10 | 日本サンゴ礁学会評議員・沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わった。一般向けには、パラオ国でのシンポジウムを実施し、研究成果の社会還元を促進した。また、環境省総合研究推進費のアドバイザーとして、該当プロジェクトへの助言等をおこなった。 |
| 管理 運営 | 0.10 | 学部(生物系)関連の学務担当に関わる。また、理学部のOIMAP運営委員、研究戦略推進会議の企画員を務める。ダブルディグリープログラムの運営委員として相手国教員との協議など各種業務を担当しつつ、推進につとめる。 | | 0.10 | 生物系学務WGにメンバーとして学部学務の実施に関わりつつ、留学生特別プログラム運営委員会委員を務めた。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|---|----|
| 名 前 | | 栗原晴子 | 所 属 | 理学部 海洋自然学科 | 職 名 | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.33 | 生物海洋学の基礎的知識の学習、理解、さらに学習意欲を促す授業の実施する。目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育。2年次指導担当として、生物系の学生の指導全般を行う。研究室の円滑な運営し、学部学生／博士前期課程の学生の研究指導を実施する。 | | 0.32 | 2年次指導の担当をし、学生への大学生活や教育の指導全般を実施した。海洋環境学、基礎ゼミ、海洋環境科学特論、Introduction to Oceanography,生物学ゼミナールI, II, 生物学実験、進化生態学実習、沖縄のサンゴ礁、熱帯生物学概論の講義を実施した。さらに留学生向けの授業としてIntroduction to Oceanography,およびSubtropical Biology in the Ryukyusの実施人を担当した。また修士学生3名、学部学生3名の研究指導を実施した。その他琉球大学所属の博士学生1名の研究指導を行った。パラオからの短期派遣者に研修を実施した。 | |
| 研究 | 0.40 | 国際雑誌／国内雑誌への論文のと投稿 国際／国内学会での研究成果発表の実施、外部資金の獲得(科研費、中期計画等) 国内／国際共同研究の実施 | | 0.37 | 科学技術・学術政策研究所よりナイスなステップ研究者に選定され、文部科学大臣より「ナイスステップ賞」を受賞した。国際誌に共著にて3本および著書(南極における海洋酸性化)のリードオーサーを務めた。著書「海洋の温暖化」を分担執筆した。国内学会で一回招待講演を実施し、その他6回の学会発表を行った。また海洋学会およびサンゴ礁学会でそれぞれセッションを主催した。外部資金は昨年度に引き続き、科研若手B(代表)、CREST(分担)、JST-JICA(パラオ分担)加え、新たに科研基盤B(代表)および大気海洋研共同利用(代表)の助成金を獲得し、国内外での共同研究を実施した。 | |
| 社会貢献 | 0.15 | 環境教育の普及活動の実施、ホームページやメディア等による研究により得られた成果を社会へ情報発信、学外審議会、学会関連の各種委員会としての責務の実施、環境保全に関連した活動の実施 | | 0.12 | 海洋学会環境賞選考委員、海洋学会沿岸環境委員、サンゴ礁学会評議員、サンゴ礁学会広報委員(ニュースレタの編集、HP管理など)、サンゴ礁学会将来構想委員、SCAR“Ocean Acidification action group”委員、海洋環境政策、海洋酸性化問題の解決策方法の検討委員を務めた。公開講座の担当、修学旅行生への授業、サイエンスカフェを実施した。新聞及びテレビメディアへ研究で得られた成果を情報発信した | |
| 管理運営 | 0.07 | 大学院学務担当、、選挙管理委員、その他委員会等に関わり責務の実施その他会議への出席 | | 0.12 | 大学院学務、ハラスメント委員(ハラスメント防止対策委員会、調査委員会、事情聴衆等)、理学部選挙管理委員、生物系選挙管理員に関わる業務を実施した。その他教授会、生物系会議等に出席した。科研費アドバイザーを務めた。 | |
| 進路指導 | 0.05 | 生物系の学生への就職活動に関わる情報の提供や進路相談、研究室に所属する学生の進路相談 | | 0.07 | 学生支援委員会の委員として活動し、ゆみみそーれの編集の担当や就職セミナー等に関わった。2年次への就職活動に関わる情報を提供、進路、就職、留学などの相談を実施した。所属研究室の学生の進路相談を実施した。 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|--|
| 名 前 | 日高道雄 | | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | 学部および共通教育担当科目を従来通り担当する。ダブルディグリープログラムの実施およびGRABSの発足については引き続き協力する。専門の実習に留学生をTAとして配置することにより、英語による実習ガイダンスも取り入れる。研究室の卒論生1名(中国からの私費留学生)、大学院生3名(修士1名、博士3名)をきめ細かく指導し、全員が今年度中に卒業・修了するように務める。4年次の指導教員として、卒論発表会の準備や進路指導にあたる。 | | 0.35 | 共通教育、専門の講義・実習を行うとともに、大学院(GRABS/OIMAP私費対象)の講義を行った。専門実習では日本人及び留学生をTAとして活用した。2名の後期課程学生、1名の前期課程学生、1名の4年次学生は私の定年退職と同時に修了あるいは卒業できる予定である。4年次指導教員として、卒論発表会の準備、履修・進路指導を行った。 |
| 研究 | 0.30 | サンゴ礁ハブプロジェクトおよび中期計画推進経費の支援を受けた研究成果について、現在投稿中の3編、および現在準備中の1編の論文の公表を目指す。分担者となっている基盤研究(B)の研究成果を出すように務める。また博士研究員2名との共同研究を実施する。 | | 0.30 | 大学院生との共著論文を6編発表した。サンゴ礁ハブの書籍「琉球列島の自然講座」(日本語版・英語版)の1章-1を執筆するとともに、編集委員を務めた。現在1篇を投稿準備中である。博士研究員との共同研究の成果は、研究員が日本動物学会で発表するとともに、本年6月の国際サンゴ礁シンポジウムで発表する予定である。 |
| 社会貢献 | 0.15 | 沖縄生物学会の理科教育連携WGの協力の下に、小中高校教員に対する講習や教材の共同研究を行いたい。教員免許更新講習「サンゴの教材としての可能性を探る」を実施する。県の環境影響評価審査会委員および、サンゴ礁保全行動計画委員会委員として社会的貢献を果たす。 | | 0.15 | 「サンゴの教材化の可能性を探る」教員免許更新講習を行うとともに、沖生会の活動の一環として県教育センターにおける夏季講習の講師を務めた。沖生会会長として、高校などにおける生物教育に利用できる画像データベースの作成準備を行った。さらに、日本サンゴ礁学会副会長、沖縄県の環境影響審査会委員を務めた。 |
| 管理運営 | 0.25 | 大学院担当の副学部長として、ダブルディグリープログラムの実施と拡充、GRABS私費大学院生の獲得・支援、教職大学院設置計画への理学部としての対応などに努力する。生物系内の広報グループとして、生物系教員の研究成果を紀要に発表するとともにおよびHP(またはデータベース)への掲載を検討する。紀要編集委員として理学部紀要のデジタル化を進める。 | | 0.20 | 副学部長として、プロジェクトシート作成、OISTからのTA受け入れに関する協議、パラオの特別編入システムに関するWG委員として貢献した。紀要編集員および広報委員として紀要の研究成果報告作成、高校生の大学見学の対応を行った。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|---|
| 名 前 | | 広瀬 裕一 | 所 属 | | 理学部 海洋自然学科 |
| | | | | | 職 名 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | <p>担当する正規の授業(学部、大学院)は従来通り、加えて短期留学プログラムでも講義を提供する。大学院生(博士前期・後期)の教育では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。</p> <p>大学院新入生のガイダンス資料を整備するとともに、履修・学位の要件・研究倫理について指導を行う。</p> <p>研究室に配属の学生の進路について助言する。担当の教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。</p> | | 0.35 | <p>担当の授業は短期留学プログラムを含め予定通り行った。インドネシアで開催された国際合同野外実習の引率を担当した。学部生3名の卒業研究を指導した。大学院生は日本動物学会新潟大会で発表した。大学院新入生のガイダンスを担当し履修・学位の要件・研究倫理について指導を行った。今年度は生物系から2名が県中学校の教員採用試験に現役合格しており、教職指導で一定の貢献はできていると考えている。</p> |
| 研究 | 0.25 | <p>現在投稿中・準備中の論文計4件について受理を目指す。科研費を分担する他大学・機関との共同研究を進める。科研費の申請を行うとともに、他の競争的資金への応募も検討する。2016年度日本動物学会大会の準備委員を担当する。</p> | | 0.30 | <p>今年度7編の論文を発表した(前年度に受理されていたものが含まれる)。代表で申請した科研費は採択されなかったが、分担の申請が採択された。2016年度日本動物学会大会+国際動物学会議の運営委員として様々な準備業務を担当した。</p> |
| 社会 貢献 | 0.10 | <p>離島開催の更新講習講座を提供する。出前講座の提供を登録しているので、要請があれば対応する。Invertebrate Biology誌、Frontiers in Marine Science誌のeditorial boardを担当する。</p> | | 0.10 | <p>教員免許状更新講習を担当した(石垣島)。出前講座を与勝高校で担当した。Frontiers in Zoology誌などの査読を担当した。</p> |
| 管理 運営 | 0.25 | <p>理学部特別プログラム(国際サンゴ礁研究教育ハブ形成)のプログラムリーダーを担当する。大学院(生物系)関連の学務を担当し、新入生ガイダンス、10月/3月修了生の審査・発表会等の運営を行う。生物系SEMの機器管理を担当する。</p> | | 0.25 | <p>最終年度となる国際サンゴ礁研究教育ハブ形成プログラムのリーダーとして書籍の発行・国際シンポジウムや公開講演会などの実施に関わった。海洋環境学専攻主任として専攻委員会を運営した。また、大学院(生物系)関連の学務の世話人を担当し各種業務を務めた。生物系SEMの機器管理を担当した。</p> |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p> | | 1.00 | <p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p> |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 田中淳一 | 所 属 | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 教育では、専門科目(海洋有機化学、同実験、有機化学II)、共通科目(化学入門II)、ならびに卒業研究(特別研究)、セミナー(特別演習)、基礎ゼミ等で学部生・大学院生の指導を行う。それぞれの授業内容については、昨年度のものに新しい情報を取り込み改善に努力する。当研究室の4年次学生はいずれも進学希望なので、彼らの進学相談にのる。博士後期3年次の院生には、論文を早めに投稿させる。 | | 0.40 | 担当している共通および専門の授業の内容をupdateしながら滞りなく行った。研究室の学生に対しては、2名の学部生はそれぞれ本学、および大阪大学に進学が決定した。3月修了予定の博士前期の学生については、その予定でいる。一方、博士後期3年次の学生については、3月では学位取得の条件を満たしていないため、延期となっている。 | |
| 研究 | 0.40 | 外部資金の科研費、共同研究費等で海洋天然物に関連する単独および学内外との研究を遂行する。学内の熱生圏の教員と生物多様性に関連する共同研究を行う。また、国際誌への論文投稿、ならびに国内外の学会で成果を発表する。 | | 0.40 | 科研費、沖縄県科学技術振興センター等からの外部資金による共同研究を予定通り遂行している。熱生圏の教員とも共同研究を行っている。本年度は、国際誌にすでに3報を報告し、印刷中のものが2報ある。そして国際学会で発表を行った。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 民間研究機関との共同研究を発展させるとともに、アドバイザーも引き受けていることから、事業の発展に貢献できるようにする。昨年度に終了した別の民間会社との事業についても、その後の経過について調査を行う。 | | 0.10 | 左記の民間との共同研究およびアドバイザー業務を現在も継続して行っている。 | |
| 管理 運営 | 0.10 | 今年度は系内の留学生委員会、学部のOIMAP委員会を担当している。CRABSのプログラムが開始されたこともあり、留学生関連の件で貢献する。 | | 0.10 | 国際交流関連の件で少し貢献した。インドネシアのシアクアラ大学、ランブン大学(とインドネシア科学教育省)、済州大学の一行に対応した。 | |
| その他 | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|---|
| 名 前 | | 棚原 朗 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科学科化学系 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | 講義「機器分析」へ技術職員による教育支援(機器操作, メンテナンス等の現場体験に基づく講義) 「機器分析」「放射化学」: 学生の授業評価をHPで公開しそれに基づく意見等を授業へ反映 学部学生へ大学院進学を啓蒙 学部学生へ国家資格等の取得をPR及び支援 | | 0.40 | 講義「機器分析」へ技術職員の教育支援をもらった。 学生からの授業評価を個人のHPで公開した。 国家資格「第2種放射線取扱主任者」に三年次(1名)が合格 |
| 研究 | 0.30 | 学会誌への論文投稿 所属系以外との共同研究 受託試験のPRを積極的に行い外部資金の獲得をめざす。 | | 0.30 | 著書(琉球列島の自然講座, 子供の科学)へ執筆(共著)した。 生物系教員との共同研究を行った。 受託試験(放射能測定)を獲得した(1件)。 外部資金(寄付金: 沖縄県環境科学センター)を獲得した。 |
| 社会 貢献 | 0.05 | 沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員 福島原発事故に伴う放射能に関する外部からの相談に対応 県内高等学校へ化学系の紹介を行う。 | | 0.05 | 沖縄県廃棄物処理施設生活環境影響評価専門委員(継続) 県内高等学校(向陽高校)へ化学系の紹介を行う(2/5)。 |
| 管理 運営 | 0.25 | 化学系の管理運営に参画 RI施設の放射線取扱主任者として従事 機器分析支援センターで機器の維持管理および機器講習会に協力 | | 0.25 | 代議員, 広報委員, 施設整備委員を務めた。 RI施設の放射線取扱主任者として従事した。 機器分析支援センターの放射線測定器の維持管理, 機器講習会を行った。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 米蔵誠哲 | 所 属 | | 理学部 海洋自然科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|--|-----|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生支援 | 0.34 | ・大学院講義内容の更新、来年度に向けた統計熱力学の講義の準備をする。 | | 0.34 | ・大学院講義は大気分光学の内容を増強した、熱統計力学の講義準備は概ねできた。 | | | |
| 研究 | 0.52 | ・これまでの研究(バブルゲートスイッチ、ラチェットポンプの研究)をまとめる。 ・フォームを利用した電解質ダイオード、メモリスタの研究を実施する。 | | 0.52 | ・バブルゲートスイッチ、ラチェットポンプについてはデータをまとめた。 ・卒業研究においてメモリスタの研究を実施し期待できる結果が得られた。 | | | |
| 社会貢献 | 0.00 | | | 0.00 | | | | |
| 管理運営 | 0.14 | ・化学系委員会委員の仕事をする。 ・その他の学内委員の活動を行う。 | | 0.14 | ・化学系委員会委員の仕事をした。 ・その他の学内委員の活動を行った。 | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|
| 名 前 | | 中川 鉄水 | 所 属 | | 理学部 海洋自然学科 化学系 |
| | | | 職 名 | | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成27年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成27年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 指導教員から外れたので教育のタスクが減るが、引き続き学生とコミュニケーションを取るようになっていきたい。授業も3年目であるが現状維持とせず、より良い教材・教え方を研究し、学生の理解を促したい。授業とは別に英語セミナーを行っているので、今年は受講生を増やし、学生の英語力向上に努めたい。研究室の学生にも積極性に学会・研究会へ派遣するなど様々な経験を与え、成長させるようサポートしていきたい。 | | 0.30 | 今年度も個人的に「理系学生のための英語セミナー」を開催し、多くの学生が参加した。アシスタントとしてネイティブスピーカーを招聘し、学生の英語力レベルアップに貢献した。専門実験では、昨年導入した新たな実験テーマを改良した。研究室の学生(計6名)には出張・研究会に参加させることで様々な経験や人脈作りの機会を与えたため、著しい成長を遂げた学生もいた。ただし大学院の授業が出張により不定期開催だった点は反省点であると考えている。 |
| 研究 | 0.50 | 少額の外部資金を1件既に獲得しているが、今年により多くの資金を獲得すべく他研究室や他機関の研究者と積極的に連携し、一つでも多くの外部資金を獲得するよう努力する。また、OISTとの共同研究で1報以上論文を出せるように努力する。あとは自分自身も実験できるように時間とテーマのマネジメントをしっかりと行う。学会・研究会発表は2件以上、論文は3本以上を目標とする。 | | 0.50 | 外部資金を一件(80万)、学内競争的資金を合計230万(個人配分は計120万)獲得し、研究を遂行するために必要な試薬・物品を購入できた。そのため、多くの成果を挙げる事ができた。論文は今年度1件しか報告していないが、近いうちに3件報告する予定である。学会・研究会に多数参加し、成果をアピールした。 |
| 社会 貢献 | 0.10 | 今年もオープンキャンパスに出展し、産業まつりなど学外の活動にも積極的に参加する。外部団体等に出張授業を計画・実行する。異業種交流会等にも積極的に参加し、研究説明や情報収集を行い、地域に貢献できる方法を模索すると共にコネクションを増やす。 | | 0.15 | オープンキャンパス、産業まつりへの参加に加え、化学フォーラムの一環で八重山の中学校理科教員に水素エネルギーに関する講演と実験の演習を行った。2月には沖縄県公衆衛生協会主催のセミナーで一般企業向けに講演を行った。 |
| 管理 運営 | 0.10 | 新たに委員会に配属されるので、そこで与えられた役割をこなし、発現をしっかりと行う。系会議でも下調べを十分に行い、積極的に発言を行う。 | | 0.05 | 委員会は特に仕事が無かったために委員会関連の業務はあまり行わなかった。系会議では下調べを行ってはいしたが、不十分であったと感じたので、来年の課題としたい。会議での発言はしっかりと行えたが、まだ状況判断能力や思慮に欠けると感じた。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |